

## 地域と連携し、自ら主体的に危険を回避できる 生徒の育成を目指して

葛飾区立常盤中学校 校長 糟谷 成美

3. 1-1の経験と反省を生かし、防災に対する意識が高まる中、地震等の災害に対する正しい知識を身に付け、生徒自身の「危険予測」「危険回避」の能力を育成するために、実践的な防災教育の充実が求められています。

本校でも避難訓練や集団下校を通して災害時の身の守り方や、行動の仕方を訓練してきていますが、学校以外の場所で災害が起こった場合、一人でどのように避難をしたらよいかなど、適切な防災知識が不十分であるように思われます。

教員も生徒も、東日本大震災を体験し、初めて訓練ではなく本当に避難をするという経験をしました。帰宅はしたものの、交通網が麻痺し、帰宅難民となった保護者が帰ってくるまでの間、不安の中で過ごした生徒も少なくはありませんでした。実際に帰宅するまでかなりの時間を要した生徒もいました。

本校の今年度の重点目標のひとつに、「安全教育の充実」を掲げ、平成24年度東京都安全教育推進校の指定を受けました。日常的な安全指導に

加え、災害安全を軸に地域と連携した防災訓練・避難所生活訓練を企画しました。

直下型の地震などの災害に見まわられたとき、生徒、職員合わせて約600人が、学校に残留することが想定されます。そういった状態で、地域の避難所として開設しなければならぬ現状にあります。避難所での生活を知り、自分たちにできることを考えることで、いざという時、自分に何ができるのか、どのように行動をとるべきか、主体的に判断し行動する生徒の育成を図る必要があります。さらに、地域と連携した避難所生活訓練を通して、地域の一人としての自覚を高め、地域の安全に貢献する態度を身に付けていくことをねらいとしました。

### ◎平成24年度本校の取組

(1) 災害発生時における避難所の役割とそこの生活に対する正しい知識を身に付けるために、安全指導日、朝礼の時間、朝の学級活動の時間などを利用して、指導の徹底を図る。

(2) 毎月防災便りを発行し、月々に合った内容で注意喚起を促すとともに、裏面を利用してマニュアル的な災害時に役立つ情報の発信を行う。

(3) 指導する内容については、定期的に発行される、「安全指導の資料」と、「防災便り」を中心に、「日常的に指導すべき内容」についての情報の共有を図る。

(4) 避難訓練を軸として、地震等の災害に対する正しい知識を身に付け、生徒自身の危険予測、危険回避の能力を育成する。

(5) 避難訓練は、より実践的な設定を考え、様々な状況での想定をして行う。特に、休み時間などの教員の監督下でない状況での避難行動についての訓練を取り入れる。

(6) 生徒一人ひとりが、避難所となった学校において、守られる側だけでなく、たよってくる人たちと協力して守る側にもなることを理解する。

(7) 自分の命を守り、そのあとで、人の為に力になれるよう避難所において中学生ができることを考える。

### ◎成果と課題

災害発生時に、落ち着いて冷静に考える力や、今起こっていることの前後の事情を総合的に判断して適切

な思考決定から行動に移す力がつきました。

地域に期待され、自分たちの力が地域に役立つことを学び、地域の一人としての自覚が高まっています。

地域主体の避難所生活訓練を、地域と連携して行うことで、地域の教育力を活用することができ、地域との連携をさらに深めることができました。

事業を継続していくためには、校内での職員の研修が不可欠です。計画的な研修や、教科指導の中での安全指導など、教職員のスキルアップとともに、地域の教育力も向上させ、次年度へ繋げたいと思っています。

